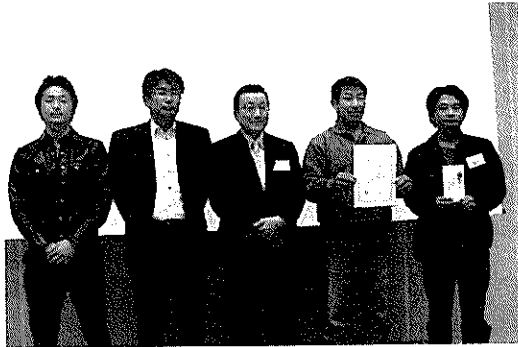


川崎陸送が「第35回KRT QCサークル代表発表会」を開催

山口営業所のサークル「関門海橋」が二連覇を達成



樋口社長(中央)と関門海橋のメンバー

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)は11月26日、「第35回KRT QCサークル代表発表会」を開催した。全国のQCサークル36チームの中から地区予選を勝ち進んだ12サークルが

組んだ。運行の報・連・相の問題件数をゼロにすることを目標に、配車係とドライバーの相互確認、作業指示書の渡し方や掲示版のレイアウトの工夫に取り組み、問題件数を70%削減したことが評価された。

なお、今回は、東日本大震災後、4-6月はQC活動を一時中断し、全サークルが活動のテーマを節電・停電・災害対策に切り替えた。節電・停電・災害対策のテーマでは、扇風機の使用、LED(発光ダイオード)照明、日陰を作る植物の導入などで49%消費電力を削減した「移液の達人Pers」(江川営業所)が最優秀賞を受賞した。

出場し、活動内容のプレゼンテーションを行った。最優秀賞には、「運行に関する報・連・相」をテーマに取り組んだサークル「関門海橋」(山口営業所)が選ばれ、昨年の大会に続く二連覇を達成した。

「関門海橋」は水処理薬品などの配送を手掛けており、客先納品に関する情報の周知と事務所掲示物および会社行事の「見える化」に取り

審査委員長の上村博規財務部長は講評で「活動報告の締め切りを守ることが一番大事で、それには活動内容を周知させる書記の役割が重要になってくる。また、テーマ選定に時間がかかりすぎているようにも感じる。他のサークルの真似をして、効果や他の方法がなかったか確認することも意味がある」とアドバイスした。